

令和7年度  
全国学力・学習状況調査

# 北海道版結果報告書

北海道（公立）における分析結果と改善の方向性

北海道教育委員会  
令和7年（2025年）11月

## はじめに

令和7年度全国学力・学習状況調査について、全道や管内の「教科に関する調査」と「生活習慣や学習環境等に関する質問調査」の結果を詳細に分析し、「北海道版結果報告書」として取りまとめました。

本調査は、学習指導要領の理念等を具体化した問題を通じ、児童生徒一人一人の学力課題を把握し、エビデンスに基づく学習指導に生かすために実施されており、特に、本年度は、CBTでの実施によりIRTが導入され、児童生徒一人一人の学習指導の充実に向けた活用の可能性が一層広がっています。

こうしたことから、本報告書の作成に当たっては、学びの改善につながる各種データを正確かつ効果的に公表し、平均正答率・IRTスコアを含む結果公表について多面的に解釈することができるよう、分布や習熟度に目配りした統計表やグラフ等に加え、記述的な説明を充実するとともに、各管内の特色ある取組や各市町村による分析等を掲載するなど、構成を工夫しています。

道教委としては、今後も、本道の児童生徒が、どの地域においても、社会で自立するために必要な学力を着実に身に付けることができるよう、学校、家庭、地域、行政が一体となった取組を推進してまいります。教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様には、本道教育の一層の充実に向け、引き続き深いご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いします。

令和7年(2025年)11月  
北海道教育委員会教育長 中 島 俊 明

## 目次

○ 本報告書の活用方法	1
I 全道の状況	
1 調査の概要	3
(1) 調査の目的	
(2) 調査概要	
(3) 調査結果の解釈等に関する留意事項	
(4) 「中学校理科」IRTに基づく調査	
(5) 結果チャート	
2 教科に関する調査結果	6
(1) 国語	
(2) 算数・数学	
(3) 理科	
(4) 今年度調査対象となった中学校第3学年の小学校第6学年時との比較	
(5) 高等学校の調査結果等を活用した授業改善の方策	
3 質問調査結果	33
(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況	
(2) ICTを活用した学習状況	
(3) 教科に関する意識や学習活動	
(4) 児童生徒のウェルビーイングに関する状況	
(5) 学校外での学習状況	
(6) 今年度調査対象となった中学校第3学年の小学校第6学年時との比較	
4 分析と改善の方向性	46
5 道教委の取組	50
(1) 検証改善サイクルの確立	
(2) 授業改善	
(3) 小中連携・接続の推進	
(4) 望ましい学習習慣の確立	
6 札幌市を除く北海道の調査結果	54
(1) 教科に関する調査結果	
(2) 質問調査結果	
II 管内の状況	
1 管内の平均正答率・IRTバンドの分布	64
2 管内の状況及び今後の改善方策	66
III 特色ある取組	
1 授業改善の推進	95
2 検証改善サイクルの確立	102
3 小中連携・接続の推進	105
4 望ましい学習習慣の確立	106
IV 各市町村の状況	
1 市町村の平均正答率・平均IRTスコアの度数分布	110
2 市町村の規模別の平均正答率・平均IRTスコア	111
3 市町村の規模別の児童生徒質問調査の回答状況	111
4 全国平均以上の市町村数(経年比較)	112
5 市町村の結果公表の掲載先一覧	113

# 本報告書の活用方法

各市町村教育委員会及び学校においては、以下の活用例を参考に、教育データの利活用によるエビデンスに基づく検証改善サイクルの一層の充実に向け、本報告書を御活用ください。

## 【活用例①】

### 教育委員会が改善策の検討に活用

教育委員会は、「管内の状況」の調査結果や「特色ある取組」、「各市町村の状況」の独自の結果公表を参考に、これまでの取組の成果や課題を検証し、今後の改善策につなげることができます。

全道の結果を見ると、本町では「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童生徒が少ない傾向にあることが分かった。

今後は、同規模の町の取組を参考に、町としての取組を見直してみよう！

該当ページ  
P63～P121



## 【活用例②】

### 学校が校内研修で活用

学校は、校内研修において、「分析と改善の方向性」を資料として活用し、自校の調査結果を踏まえ、学校全体で重点的に取り組む改善策を検討することができます。

本校の子どもたちは、「目的や相手に応じて書く」ことに課題が見られているので、今後は、目的、相手、場面、意図などを意識した言語活動を構想する中で、ICTを活用し、互いの考えを伝え合う場面を多く取り入れてみましょう！

該当ページ  
P46～P49



## 【活用例③】

### 教育委員会(学校)が保護者懇談会等で活用

教育委員会や学校は、保護者懇談会等の機会に、「質問調査結果」のウェルビーイングに関する状況や、学校外での学習状況の資料を活用し、学校や家庭での子どもとの関わり方などについて考える機会を提供することができます。

学年の子どもたちは、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目に肯定的に回答した割合が高かったので、今度の保護者懇談会で話題にしてみよう。

一方、学校外での勉強時間は少ない傾向が見られたので、家庭学習の課題を工夫して、子どもが意欲的に取り組めるようにしよう！

該当ページ  
P33～P41



## 【活用例④】

### 教員が日常の授業づくりに活用

教員は、「教科に関する調査結果」の解答類型や、「質問調査結果」の教科に関する意識などを基に学級の児童生徒の状況を把握し、日常の授業づくりに生かすことができます。

学級の子どもたちは、国語の「書くこと」領域を苦手としている傾向が見られるので、次の「書くこと」の学習では、ICTを活用して、どこを詳しくすればよいかを友達同士で話し合ったり、書いた文章を見せ合ったりする活動を重点的に位置付けて単元計画を立てることにしよう！

該当ページ  
P6～P38

